国立国語研究所学術情報リポジトリ

閉会の辞：今後の展望

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 影山, 太郎 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00000955

閉会の辞～今後の展望～

所長　影山 太郎

みなさま、一時から五時すぎまで四時間、あいだにデモンストレーションも挟み、長時間おつきあいいただきました。本日は、ウチから見た日本語、ソトから見た日本語、そして、ウチとソトの接点としての日本語学習について研究成果をご紹介しました。特に、ウチとソトの二つの視点が接触する日本語教育・日本語学習については、日本の文化や生活様式、人間関係、その他さまざまな要素が影響していて、単純にことばの問題として片付けられないことをご理解いただけたかと思います。

開会の挨拶で述べましたように、日本語の将来は未来永劫、安泰であるとは言い切れません。私は、国立国語研究所の仕事は今日のグローバル化されつつある世界において、日本の「無形文化財」といってよい日本語という言語を守り立てていくことだと思っています。そのためには、豊かで美しい日本語の姿を将来に伝えていくような研究、研究の成果を研究者、一般社会、日本語学習者に発信することで学術世界と日常生活の双方を豊かにするような研究、そして、日本語の学術的研究および日本語という言語そのものを世界に浸透させるような活動をこれからも進めていく所存です。とりわけ重要なのは、最後に挙げた、世界との関係です。従来、日本語の学術研究は国語学と呼ばれ、日本という小さな列島のなかだけに収まっていました。しかし、それでは現在のグローバル社会では通じません。日本語の学術的研究および日本語という言語そのものを世界に広めていくための情報発信、成果発信を強化していきたいと思っています。

これで閉会となりますが、次回は来年二〇一七年一月二一日（土）、場所は今日と同じ一橋講堂で開催します。そのときの出し物は「オノマトペ」、すなわち擬声語、擬音語、擬態語を予定しています。「雨がザアザア降る」「シトシト降る」といった言い方は、西洋の言語学者のあいだでは、原始的で幼稚な表現と見なされることが多いようです。ところが、日本語のなかでは、オノマトペは、音声、意味、文法、文体など言語全般にかかわる複雑な性質を持っていて、文学作品や日常のコミュニケーションにも大きくかかわっています。次回は、日本語にとって無くてはならないオノマトペにまつわる《びっくりぽん》な話を準備しています。是非、お越し下さい。

本日は最後までお付き合いいただきまして、ありがとうございました。